

大分県産梨販売促進(ベトナム)

日時：平成30年9月27日(木)～10月11日(木)

内容：ホーチミン高島屋での販売促進



- ・ H29年1月に日本産梨が輸出解禁となったベトナム(ホーチミン)にて店頭販促を実施した。
- ・ 「豊水」、「あきづき」の2品種を販売。
豊水: VND145,000/玉 ≒ 1,400円/kg あきづき: VND145,000/玉 ≒ 1,400円/kg
- ・ 販売価格が高かったため購入客数は多くはなかったが、箱で購入する消費者もおり、日本産果物を買う一定数の富裕層の存在が確認できた。
- ・ 日本の特定の産地に対する認知度はほとんどない様子であった。
- ・ 今回は2品種を販売したが、食味では「あきづき」が人気であり、先に売り切れとなった。
- ・ 日本産梨の支持者がいる一方、安価な韓国産を支持する消費者も存在した。
- ・ ホーチミン市内量販店にて販売されている韓国産梨はVND72,900 ≒ 360円/kg程度と価格に大きな隔たりが存在するため、販売価格の圧縮やプロモーションによる認知度向上などが課題となりそうである。



週末の夕方には多くのお客様が梨の試食に立ちよっていた

大分県産かんしょ販売促進(シンガポール)

日時：①平成30年12月 8日(土)、9日(日)
②平成31年 1月19日(土)、20日(日)

内容：①NTUC Fair Price 5店舗で販売促進
(Ang Mo Kio、JEM、Marine Parade、NEX、Bukit Timah)
②NTUC Fair Price 5店舗で販売促進
(Clementi Mall、Hillion、Junction 8、Sports Hub、Thomson Plaza)



Ang Mo Kio



Bukit Timah



JEM



Marine Parade



NEX



Clementi Mall



Hillion



Junction 8



Sports Hub



Thomson Plaza

- ・ 大手量販店Fair Priceにてかんしょの店頭販売促進を実施。蒸したかんしょを試食に使用して、消費者へのPRを行った。
- ・ 500gでSGD4.45(約380円)で販売。味は非常に好評であり、売り場に人だかりができる場面もあった。
- ・ 販売も好調であり、20ftコンテナ満載にて輸出したかんしょが1週間で売り切れとなった。
- ・ 消費者からは焼き芋を求める声も複数あったため、焼き芋機を使用した販売も必要と思われる。

大分県産梨 春節向け販売促進(台湾)

日時：平成31年1月18日(金)～20日(月)

内容：台湾7店舗で販売促進

(太平洋SOGO忠孝店、中壠店、city'super復興店、板橋店、微風広場、微風南山、高雄大立百貨)



太平洋SOGO忠孝店



太平洋SOGO中壠店



city'super復興店



city'super板橋店



微風廣場



微風南山



高雄大立百貨

- ・ 春節にあわせて、百貨店・量販店7店舗にてマネキンを立てた店頭試食販売を実施。
- ・ コストコ、ジェイソンズでも販売は実施したが、店頭販促は上記7店舗にて実施。
- ・ 新規オープンしたばかりの微風南山でも販売促進を実施し、富裕層へのPRを行った。
- ・ 露地梨の出荷時期ではない販売商戦となるため、貯蔵性に優れた品種(新高)にて販売を実施した。ギフト用としての需要が高いことから、大玉規格が人気(5キログラムで5玉、6玉サイズ)。
- ・ 韓国産、台湾産との競合があるが、日本産梨自体は良質なものであるというイメージを消費者が持っていることから、販売自体は好調であった。しかし、店頭販促など消費者の目に触れる販売活動は継続していく必要があると思われる。

大分県産かんしょ販売促進(香港)

日時：①平成31年1月25日(金)～28日(月)

②平成31年3月8日(金)～10日(日)

内容：①YATA 3店舗で販売促進(大埔店、沙田店、セン湾店)

②YATA 4店舗で販売促進(大埔店、沙田店、觀塘店、屯門店)



大埔店



沙田店



セン湾店



大埔店



沙田店



觀塘店



屯門店

- ・ 香港YATAにて店頭販売促進を実施。焼き芋を試食に使用して、消費者へのPRを行った。
- ・ 500gでHK\$21.8(約300円)で販売。香港でのかんしょ人気は高く、常に売り場ではかんしょを選んでいるお客様が見られた。
- ・ 静岡県産、宮崎県産、鹿児島県産など売り場には多くの日本産かんしょが販売されていた。
- ・ かんしょ自体は高価な商材ではないため、現地の中間層にも手が出しやすい商品となっており、店頭販売は好調であった。
- ・ 現在は小袋に入った小芋が多いが、その他規格での販売促進も広げることさらなる輸出拡大につながることを期待できる。